

愛媛大学社会共創学部同窓会会報



CONTENTS

1. 同窓会会長挨拶	1
2. 学部長挨拶	2
3. 退職の挨拶	4
4. 同窓会からのお知らせ	7
・ 同窓会の活動について	7
・ 同窓会ホームページを開設しました	7
・ 会員情報登録・変更のお願い	8
・ 会費納入のお願い	8
5. 卒業生の声	
・ 白方 大海さん（第1期生 産業マネジメント学科卒業）	9
・ 宮村 規玖さん（第3期生 地域資源マネジメント学科）	10
6. 編集後記	12

※ 同窓会会報発行時は、令和3年度卒業予定者となります。

1. 同窓会会長挨拶



愛媛大学社会共創学部同窓会の会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会の運営等にご協力とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

この度、愛媛大学社会共創学部同窓会では、第1号の同窓会会報（Web版）を発行しました。会報では、同窓会活動に関するお知らせ、卒業後の会員の皆様のご活躍、先生方のご紹介、在学生のメッセージ等を掲載しておりますので、ぜひ最後までご覧ください。今後も、定期的に会報を発行していきますので、ご覧いただければ幸いです。

令和2年3月に設立された「愛媛大学社会共創学部同窓会」は、運営体制を強化し、愛媛大学が展開する事業への寄附、社会共創学部が主催する行事等への支援等、精力的に活動を実施してきました。今後も、さらに活動の幅を広げ、愛媛大学及び社会共創学部の発展のために貢献したいと考えていますので、引き続き、ご協力とご支援をお願い申し上げます。

2022年3月4日

社会共創学部同窓会長

宮崎 渥



2. 学部長挨拶

今、社会環境は激変し、DX、グローバル化の波が私達の社会、産業生活、文化などに未曾有の変革をもたらしています。そして、地域社会の課題は質、量ともに複雑化し、これまでの知識と経験のみに頼ってでは課題を解決することができなくなりつつあります。よって、新たな知識と課題解決能力を有する人材が求められているのです。



社会共創学部はそのような人材の育成を教育理念とし、2016年4月に愛媛大学においては42年ぶりの新学部として設置されました。第1期生が卒業され社会に巣立った2020年3月に「社会共創学部同窓会」が設立されたことは、本学部の歴史にとって重要なマイルストーンとなります。改めまして同窓会会員の皆様、おめでとうございます。この設立のために多大なご尽力をくださった関係者の皆様の並々ならぬ母校愛とご苦勞に、学部教職員一同、深く感謝いたします。

本学部は、地域社会のニーズに特化した教育研究を着実に展開しています。文系理系の幅広い専門領域を融合させ、理論と実践をバランスよく編成することで、専門性を深め、課題解決力を高めることが本学部のカリキュラムの特徴であり、その教育成果は社会から高い評価を受けています。卒業された皆様がそれぞれの領域で新たな価値創造を実践し、社会共創学部の教育使命を果たして頂いていると確信しています。

近年、新型コロナウイルス感染症への対応とともに、地域をキャンパスとする本学部の教育実施において様々な困難に直面しています。学部教職員が一丸となって、教育・研究活動の継続と更なる発展に向けて努力してまいります。

同窓会の組織の発展は同窓会会員の皆様お一人一人のご理解とご協力が必要不可欠です。社会共創学部と連携を深めながら、同窓会の活動や会員の皆様へのサービスの充実を図って頂きたいと思います。会員の皆様にとって、同窓会が多様な情報交換の場として、さらにはご自身の母校へのエール発信の拠点として機能することを切に願っています。

“現状維持は衰退である。”

社会共創学部はこれからも前進し続けます。

同窓会会員の皆様方には、引き続き、社会共創学部へのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2022年3月4日

社会共創学部同窓会長

徐 祝旗

3. 退職の挨拶



浅井 英典先生【ご退職】

(社会共創学部地域資源マネジメント学科教授)

<お礼そして今思うこと>

愛媛大学には1985年に赴任後、37年間にわたりお世話になりました。大学改革の流れの中で教養部、教育学部、そして社会共創学部という3つの部局を異動しました。年数は最も短いものでしたが、健康づくりから地域貢献活動を行うことのできる社会共創学部での教員生活が自分には最もフィットしていました。活き活きとした表情で子ども達や成人の方々に真摯に対応する学生の皆さんからは、教育活動を深めるエネルギーを頂きました。また、教職員の皆様からも多大なる暖かなご支援を頂いたことを実感しています。皆様にはこの場を借りて、改めて厚くお礼申し上げます。



37年間には良い思い出も苦い思い出も数え切れない程ありますが、特に印象に残るのは、附属高校で校長職に就かせて頂いた時期です。生徒のために学びの環境を改善していこうとする努力を惜しみなく行ったことで、色々な意味で私自身大きな成長をさせて頂いた時期であると感じています。その過程で生徒や学生の皆さんの力を引き出すあるいは涵養する上で、人的そして物的な様々な面から教育環境を日々改善していくことの重要性を実感しました。

挨拶文で諺を引用することは私のスタイルではありませんが、この後の卒業生の皆さんへのメッセージにも係わるので、敢えて引用すると以下の諺を挙げさせていただきます。

「転石苔を生ぜず(A rolling stone gather no moss)」



この諺を良い意味で解釈すれば、私は3つの部局で色々な立場におかれました。その局面々々に応じて臨機応変に自分がよりベターだと思う方向に前向きに転がった(対応した)おかげで、苔も生えず常に清新な自分を保つことができたように思います。また、その副産物として人として角が取れ(寛容になれた・人に優しくなれた)、愚直に物事に正対することができるようになったことを内心自負しています。

<卒業生の皆さんへ>

卒業される皆さんは、かつて経験したことがないほどの多様性と流動性の激しい社会に足を踏み入れ、その厳しい環境の中で公私ともにしっかりと自分を保って行かなければなりません。しかし、不合理・理不尽と感じられる場面にも度々遭遇し、好むと好まざるとにかかわらず対応せざるを得ない局面に遭遇します。あらゆる方向から皆さんに押し寄せてくるプレッシャーに対して、皆さんは様々に形を変えながら対応していくことが求められます。

こころの中でその対応や変化に対して、自分自身納得できないこともあると思います。しかし、外面的な形は変えたとしても、ぜひ自分の中心に秘めたコアとなる部分は、自分らしさを失わず、良い意味での矜持を保ちながら、他者への優しさを尊重する姿勢を堅持して頂くことを願っています。【コアを大切に】

しかし、生きていく上で、失敗はつきものです。後悔が残ることも多々あります。そこで、自分の人生は水彩画ではなく、油絵だと思しましょう。自分にとって消したい色(失敗・後悔)は、その後に自分の好きな色(成功・歓び)を重ねて塗れば良いのです。後悔しても自分にとって良い思い出となる色を重ね塗りする作業を根気強く行いましょう。最後の最後まで良い色を塗って、自分の満足する絵を完成すれば、あなたの勝ちなのです。【人生は油絵】

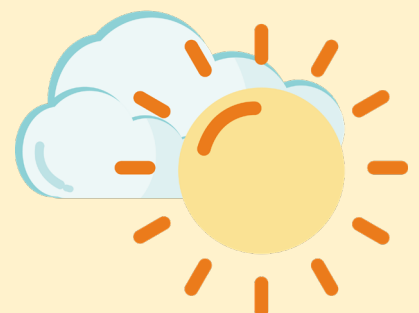
その手立てとして、卒業式後にこれから社会で頑張っていこうという意気込みと希望に満ちた笑顔の写真を是非1枚撮って、スマホに大切に保存して下さい。その表情が皆さんの原点になります。前述のように社会で様々な活動をして、矛盾や疲弊を感じて、ここが折れそうになった時、その写真を観ることで、自分の原点を思い起こし、再び前に向かって歩みを進めるレジリエンスのエネルギー源として下さい。【原点を持つ】

そして、平素の生活の中で水平の視線だけでなく、常に高いところから周囲を俯瞰する視点を持ちましょう。これから進もうとする方向だけでなく、できる限り幅広く自分の周囲(おかれている現状・立場)を高めから見渡す習慣をつけて下さい。自分の進路が見えてくるはずです。【視線を高く】

しかし、鷹の目を持ったとしても社会共創学部で学んだ多くの貴重な知識と経験だけでは、まだまだ足りません。失敗を繰り返しながらも、また立ち上がり、俯瞰した視線で、常に様々な知識やスキルを獲得する学びの姿勢とそれを可能にする愚直で謙虚な姿勢を貫いて下さい。人生は学びに始まり、学びで終わる、学びの連続です。それを怠れば、自分自身の進歩も後退し、それによって得られる喜びも色褪せてしまいます。定年を迎えるにつれて、このことを強く感じます。【愚直に学ぶ】

最後に、卒業生の皆さんには、自分のコアを保ち、常に前向きな明るい笑顔をもって社会で暮らすこと、そして何らかの形で地域に貢献する人材としての歩みを止めないご活躍を心から祈っています。【社会に貢献】

お幸せに・・・



4. 同窓会からのお知らせ

・ 同窓会の活動について

「愛媛大学社会共創学部同窓会」は、第1期生の卒業に合わせて、令和2年3月に設立されました。同窓会は、愛媛大学及び社会共創学部の発展に寄与することを目的に活動していきます。

< 令和3年度事業計画 >

※ 愛媛大学社会共創学部同窓会総会（令和3年7月20日開催）に承認済み

○ 広報活動

- ・ 社会共創学部同窓会ホームページの開設
- ・ 社会共創学部同窓会会報の発行

○ 教育研究活動支援事業

- ・ 愛媛大学グローバル人材育成事業への寄附

○ 行事支援事業

- ・ 令和3年度社会共創学部卒業祝賀会への援助
- ・ 令和3年度卒業生への記念品贈呈
- ・ 第1期生への愛媛大学酒贈呈

・ 同窓会ホームページを開設しました

令和4年1月末に、同窓会ホームページを開設しました！

同窓会活動に関することや同窓会会員である皆さまへのご連絡等を、定期的に発信していきます。また、同窓会会報も年2回程度、掲載していきますので、ぜひご覧ください！

同窓会に関する情報を掲載しています

会報はこちらよりご覧いただけます

総会結果や事業計画等、同窓会の活動について掲載しています

愛媛大学社会共創学部同窓会について

愛媛大学社会共創学部同窓会は、愛媛大学及び社会共創学部の発展に寄与することを目的として、令和2年3月24日に設立された団体です。この目的を達成するために、愛媛大学及び社会共創学部の教育・研究・就職活動等への支援、同窓会会報の発行、講演会の開催等を行ってまいりますので、同窓会の皆様のご協力・ご支援を何卒よろしくお願いいたします。

・ 会員情報登録・変更のお願い



同窓会を運営するにあたり、社会共創学部を卒業された正会員の皆さまの情報が必要となります。また、住所や電話番号等の変更がありましたら、変更手続きもお願いします。

なお、皆さまからお預かりした個人情報については、「愛媛大学社会共創学部同窓会個人情報保護方針」に則り、適切に個人情報の保護に努めます。

QRコードを読み込んでアクセスできます。
読み込めない場合は下記よりアクセスしてください。
<https://www.cri-ehime-u-graduate.jp>



・ 会費納入のお願い

同窓会設立前に入学された皆さま（平成28～令和元年度）については、入学時に同窓会会費を納入していただいております。同窓会の予算は、皆さまからの会費（一人20,000円、初回のみで以後は必要なし）があって成り立っていますので、未納者の方につきましては、ぜひ納入をお願いします。

なお、年に1回、同窓会会費未納入者の方には納付依頼文書を送付させていただきます。



5. 卒業生の声

白方 大海さん

(産業マネジメント学科卒業)

2020年度に産業マネジメント学科を卒業しました、白方大海と申します。卒業後は、東京の人材系企業で企画・マーケティング職として働いています。



学生時代は、主に「農業」と「海外」の2つのカテゴリを中心に学んでいました。「農業」は学内外問わず、学びたいテーマを決めては造詣の深い教授や現場の方々に直接お話を伺い、実地メインでの学びを深めました。中でも、大学を1年間休学し、全国の農業関係者の方を訪ねて学ばせてもらった経験は印象に残っています。学内でも、専攻ではない学問領域にも関わらず、他学科・コースの授業に参加しながら学術面での知識も増やしていきました。

「海外」では、「海外フィールドワーク」や「海外インターンシップ」に参加し、国も違えば中身も違う様々な経験を積むことができました。中でも、インドネシアでのフィールドワークでは、現地の学生とグループを作り、住民の方への聞き取り調査をした結果をもとに施策立案をしました。全てのコミュニケーションが英語で行われ、意思疎通に苦労し、分かり合えるまで対話をし続けることが要求されました。また、ステークホルダーによって何を求めているかも違うため、対話の中で何を解決していくのかを読み取る力も必要で、言語だけでなく、その行間を理解する難しさに直面した時間でありました。

上記の経験においてたくさんのことを学びましたが、今の仕事にも通じているのは「主体的に学びの旗を立てること」です。私は産業マネジメント学科で経済・経営を専攻していましたが、「農業」や「海外」といったように他領域で学びたいことがあった自分を多くの教授にサポートしていただきました。海外での経験も、自分でやりたいと手を挙げることで、様々な国に渡航する機会を下さり、経験値を増やすことができました。



自らが学びたいことを経験や直感を通じて見つけ、深めるために行動をしていくこと。これは、現職で成果を最大化させるために、自分で問題を発見して解決をしていく姿勢につながっています。

夢は、「次世代へ柑橘産業をバトンパスできる農家」になること。栽培技術以外でのスキルを身につけ、深めていくための、東京

での社会人生活であります。大学時代に培ってきた経験や学びを再度振り返りつつ、毎日小さな努力とチャレンジを続けていきます。

宮村 規玖さん

(地域資源マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース卒業)

4年間の大学生活は、あっという間でした。スポーツ健康マネジメントコースでは、フィールドワークを通して老若男女あらゆる人々と交流し、地元への理解を深めました。特に、愛媛県立三崎高等学校と実施した高大連携ダンスプロジェクトは、かけがえのない体験でした。3年間伊方町に赴き、明るく素直な高校生と協働でダンス作品を創作・発表しました。高校生を輝かせるサポーターとして適切な指導や言葉がけをすることの難しさも知りました。その中でも「仲間と踊ることの楽しさ」や「踊りを通して人と繋がる素晴らしさ」を伝えようと努力した日々が、自身の指導力や対人スキルの向上に繋がったと感じています。

また、4年間ダンス部に所属したことで、私以上に私のことを理解し、支えてくれる3人の友人と素晴らしい先輩・後輩、大好きな恩師に出会うことができました。学部・出身・年齢が異なる彼らと交友を深めて、様々な価値観に触れることは新鮮であり、自身を見つめ直すきっかけとなりました。



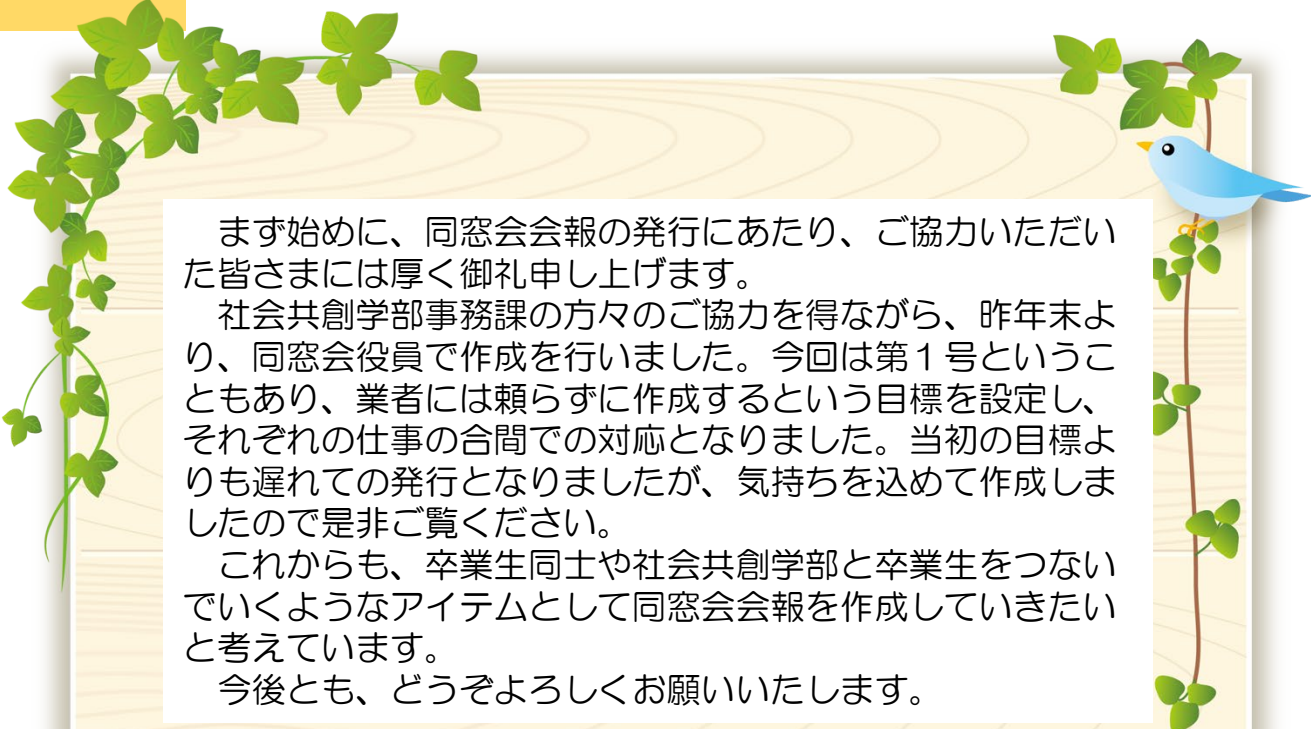
ダンス部の活動や仲間のことを思えば思うほど、人間関係が上手くいかず沼にはまってしまうような苦しさを味わったこともありました。卒業を目前にした今では、向き合うことから逃げていたあの頃の自分に後悔も残ります。しかし、それらも含めて自分を成長させてくれた大切な時間だったと感じています。

2020 年度に突入すると、コロナ禍における入構規制や大学での活動制限により、人と交流する機会が失われました。ダンス部でもコミュニケーション不足による弊害が見受けられ、踊りに必要な表現力や体力を維持するために、新しい活動の在り方を模索しました。コロナ禍において、私たち大学生に求められたものは「頭で考え抜く力」でした。リモート活動をはじめとして、趣向を凝らしながら新たな道を開拓してきた経験を今後も活かしていきたいです。

最後にリモート社会が発達する現代社会において、アナログ的な交流の機会が消失しないことを切に願います。誰かに支えられて毎日を過ごしていることを忘れず、人への感謝とリスペクトの気持ちを持ち続ける人でありたいと思います。



6. 編集後記



まず始めに、同窓会会報の発行にあたり、ご協力いただいた皆さまには厚く御礼申し上げます。

社会共創学部事務課の方々のご協力を得ながら、昨年末より、同窓会役員で作成を行いました。今回は第1号ということもあり、業者には頼らずに作成するという目標を設定し、それぞれの仕事の合間での対応となりました。当初の目標よりも遅れての発行となりましたが、気持ちを込めて作成しましたので是非ご覧ください。

これからも、卒業生同士や社会共創学部と卒業生をつないでいくようなアイテムとして同窓会会報を作成していきたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

<発行者>

愛媛大学社会共創学部同窓会事務局

〒790-8577

愛媛県松山市文京町3番（愛媛大学社会共創学部内）

E-mail : support@cri-ehime-u-graduate.jp

HP : <https://www.cri-ehime-u-graduate.jp/>